

献身的活動たたえ大臣感謝状

行政相談員退任の工藤昭二さん、工藤加寿子さんに

行政相談員を3月末で退任した工藤昭二さん＝下町三区＝、工藤加寿子さん＝苗石田＝に4月25日、岩手行政監視行政相談センター所長から総務大臣感謝状が贈られました。工藤(昭)さんは平成26年から、工藤(加)さんは令和5年4月から、それぞれ地域の身近な相談相手として精力的に活動。行政苦情の解決に尽力されました。

工藤(昭)さんは「信念を持って活動してきたが、任期を終え、安堵した部分もある。これからは微力ながら後任のサポートをしていきたい」と頬を緩ませました。



感謝状を贈られた工藤昭二(左)さんと工藤加寿子さん



入院患者の様子を確認しながら優しく足を洗う参加生徒

もっと知りたい看護の仕事

市立病院で高校生が足浴や血圧測定を体験

ふれあい看護体験は5月15日、市立病院で行われ、市内外の高校生9人が参加しました。

参加者は、院内の業務説明を受けたのち、看護師の指導の下、実際に入院患者の足を洗ったり、血圧測定の方法を学んだりしました。高橋叶愛さん(盛岡第二高2年)は「医療系の職業に興味があり参加した。将来のイメージがより具体的になった」と目を輝かせました。

体験は、看護の日(5月12日)にちなみ、看護の仕事に理解を深めてもらおうと、毎年実施しているものです。

力合わせて交流を深める

ハロウ安比校生徒が安代中運動会に初参加

市内小中学校14校の運動会・体育祭は、5月10日から24日にかけて、それぞれの学校で行われました。

5月10日の安代中運動会では、応援合戦や各競技で熱戦が繰り広げられたほか、ハロウ安比校の生徒が初めて参加。同校生徒6人と安代中生徒のほか、保護者も参加して行われた綱引き競技では、会場から大きな声援が送られました。小林愛佳さん(安代中3年)は「中学校生活ではハロウ安比校と5回交流し、どれも楽しかった。卒業までにもっと交流したい」と声を弾ませました。



ハロウ安比校生徒や保護者も参加して行われた綱引き競技



参加者を前に、俊敏な動作でジャンプの手本を見せた小林選手

楽しさを知るきっかけに

スキージャンプ小林陵侑選手がスポーツイベント

スキージャンプなどスポーツに親しむイベント「Ryoyu BIG JUMP FES in HACHIMANTAI 2025」は4月19、20の両日、市さくら公園イベント広場で行われました。

イベントは、子どもたちにジャンプを楽しんでもらおうと、本市出身で北京冬季オリンピック金メダリストの小林陵侑選手が、昨年に引き続き企画。会場には、手作りのミニジャンプ台が設置されました。19日のジャンプ体験会に参加した小林莉々子さん(平舘小2年)は「転んだけど何回も飛んで楽しかった」と声を弾ませていました。



高さ約1.5mのジャンプ台に何度も挑戦する子どもたち

「老い」との向き合い方考える

節目迎えた「安代未来を拓く女性会議」が映画会を開催

地域の担い手育成を目的に、安代地区の5団体(当初は8団体)で組織し、平成5年から活動する「安代未来を拓く女性会議」は4月20日、30周年記念事業として「認知症フレンドリー市民上映会」を荒屋コミセンで開きました。

上映会には約50人が参加。映画を通して認知症や介護のあり方について理解を深めました。女性会議の議長を務める八幡勢子さん(JA女性部)は「認知症に限らず、参加者が、さまざまなことを考えるきっかけになるような活動を続けたい」と思いを込めました。



認知症や介護のあり方を学ぼうとたくさんの市民が来場した

スナップ ギャラリー



約2歳の一升餅を背負った幼児が、家族に手を引かれ、10分先のゴールを目指して歩いた(5月5日、道の駅にしね)



五日市振興協議会事業で飾り付けた鯉のぼりが桜並木に沿って、元気よく泳いだ(4月27日～5月6日、五日市河川公園)



市内4中学校から男女7チームが出場。区間3位の快走を見せた西根中第1走の森奏輔さん(4月20日、盛岡市内一周継走)



杉の子こども園の園児40人が「大きくなってね」と声を掛けながら稚魚を放流(5月27日、松川淡水漁業協同組合アユの放流会)



安比塗漆器工房で、漆器のほか、パイヤー押しの生活道具を販売(4月26日～5月6日、うるしと生活道具とこびるっ)



5月2日で100歳を迎えられた高橋ナミエさん＝立石＝これからも元気(5月2日、自宅)